

放課後等デイサービス事業所における自己評価結果(公表)

公表:令和2年2月17日

事業所名 児童発達支援センターおひさま

	チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた改善内容又は改善目標
環境・体制整備	1 利用定員が指導訓練室等スペースとの関係で適切である	○		適切です。	
	2 職員の配置数は適切である	○		少し多めに配置しています。	
	3 事業所の設備等について、バリアフリー化の配慮が適切になされている	○		バリアフリーの配慮を行っています。外門入口の階段については現段階で困りごとの申し出はありません。バリアフリーの入り口も準備してあります。	
業務改善	4 業務改善を進めるためのPDCAサイクル(目標設定と振り返り)に、広く職員が参画している	○		年・月・日・都度等、行事や活動について職員で振り返りを行い、改善された計画の繰り返しを行うことで質の向上、次なるステップへの目標設定を可視化して行っています。	
	5 保護者等向け評価表を活用する等によりアンケート調査を実施して保護者等の意向等を把握し、業務改善につなげている	○		30年度のアンケートでは、障害のない子どもと活動する機会について8割の方が「どちらともいえない」もしくは「いいえ」という結果でした。その結果に基づき家族会の際に、どのような形の交流を希望されるか、期待されるかご意向を聞かせていただきましたが、現在のように自然な形で、公共施設や公園、行事等の交流の中でいろいろな経験を重ねていくという事でした。 日常生活を地域の中で暮らせる子どもたちが多い状況ですので、子どもたちのその年齢で感じる気持ちに寄り添いながら1年間支援を行ってまいりました。今年度におきましては、皆さまより「はい」の回答をいただきましたので改善されていると判断いたします。今後も保護者とご本人の意向に沿った事業運営を図っていきます。	
	6 この自己評価の結果を、事業所の会報やホームページ等で公開している	○		ホームページと家族会の際にも結果をお話しさせていただいています。その際に改めてご要望等確認させていただいています。	
	7 第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげている		○		今後実施できるように検討していきます。
	8 職員の資質の向上を行うために、研修の機会を確保している	○		毎日短時間研修、毎月、法人全体の職員会議と事業所の研修を行っています。また、外部研修にも積極的に参加できるようにしています。参加した研修については、必ず復命研修を行い、職員間の共通認識を図っています。	
9 アセスメントを適切に行い、子どもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、放課後等デイサービス計画を作成している	○		本人や保護者の達成度やニーズを把握し、アセスメント表をもとに分析を行い、カンファレンスを行い、個別支援計画を作成しています。		

適切な支援の提供	10	子どもの適応行動の状況を把握するために、標準化されたアセスメントツールを使用している	○		使用しています。	
	11	活動プログラムの立案をチームで行っている	○		年間計画をもとにチームで月案を立案し、個別の目標を念頭に支援を図っています。職員間で意見交換を行い、共通認識ができる事で支援を円滑に行う事ができています。	
	12	活動プログラムが固定化しないよう工夫している	○		子どもたちが「ねらい(目標)」を達成することができるわくわくする活動を職員はいつも考えています。特に、話し合いで自分の意見を伝えたり、相手の意見を受け入れたりする主体的で対話的で深い学びにつながる取り組みを意識しています。体づくりや「なぜ？」を大切に季節を感じながらこれからも活動を進めていきます。	
	13	平日、休日、長期休暇に応じて、課題をきめ細やかに設定して支援している	○		その日の活動で終結する活動と、長期的に課題目標を持ち取り組んでいく活動とを計画的に進めております。	
	14	子どもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせ放課後等デイサービス計画を作成している	○		実施しています。	
	15	支援開始前には職員間で必ず打合せをし、その日行われる支援の内容や役割分担について確認している	○		職員は事前に必ず打ち合わせを行い、役割分担を行っています。個別対応の職員も決め、ねらい(目標)に応じた支援を行っています。	
	16	支援終了後には、職員間で必ず打合せをし、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有している	○		支援終了後は、子どもたちの様子を含めて振り返りを行い、意見交換を行うことで次につなげています。	
	17	日々の支援に関して正しく記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげている	○		日々の支援に関して正しく記載し、成長の振り返りも行っていきます。	
	18	定期的にモニタリングを行い、放課後等デイサービス計画の見直しの必要性を判断している	○		定期的に子どもの発達状況の分析・環境の変化などの情報収集と保護者の意見、関係者の意見を取り入れながらモニタリングを行い、カンファレンスを行い個別支援計画の見直しを行っています。	
	19	ガイドラインの総則の基本活動を複数組み合わせ合わせて支援を行っている	○		子どもたちが意欲的に自主的に参加できる活動や成功体験の積み増しができるよう取り組んでいます。子どもたちが協同で大型ロボットをつくったり餅をついたり丸めたり、川遊びや数ある遊びの中から遊びを選択したり楽しんで活動に取り組める支援を行っています。	
	20	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議にその子どもの状況に精通した最もふさわしい者が参画している	○		子どもの状況をよく把握している管理者やサービス管理責任者等が参画しています。	
	21	学校との情報共有(年間計画・行事予定等の交換、子どもの下校時刻の確認等)、連絡調整(送迎時の対応、トラブル発生時の連絡)を適切に行っている	○		学校・家庭との連絡・連携を行い、順次対応できるようにしています。教諭とも連携を図り関係性の構築に努めています。	
	22	医療的ケアが必要な子どもを受け入れる場合は、子どもの主治医等と連絡体制を整えている	○		保護者を介し連携を図る体制をとっています。個別の状況に応じて体制を組む予定です。	

関係機関や保護者との連携	23	就学前に利用していた保育所や幼稚園、認定こども園、児童発達支援事業所等との間で情報共有と相互理解に努めている	○		努めています。	
	24	学校を卒業し、放課後等デイサービス事業所から障害福祉サービス事業所等へ移行する場合、それまでの支援内容等の情報を提供する等している	-		今年度は対象の方はいらっしゃいませんでした。対象の方がいらしたときは移行がスムーズにできる様情報提供を行う予定です。	
	25	児童発達支援センターや発達障害者支援センター等の専門機関と連携し、助言や研修を受けている	○		児童発達支援センター間の連携や鹿児島県こども総合療育センターからのご助言・研修を受講させていただいています。	
	26	放課後児童クラブや児童館との交流や、障がいのない子どもと活動する機会がある	○		公園に出かけたり、図書館に出かけたりする中で、自然な形で障がいの有無にかかわらず交流ができる機会を提供させていただいています。	
	27	(地域自立支援)協議会等へ積極的に参加している	○		自立支援協議会への参加は対象になっておりませんが、鹿児島市が主催する児童発達支援センター会議(自立支援協議会こども部会下部組織)に出席しております。情報は、地域の児童発達支援事業所に共通認識させていただいております。その他、法人として地域ケア推進会議等に出席し情報の交換を行っております。	
	28	日頃から子どもの状況を保護者と伝え合い、子どもの発達の状況や課題について共通理解を持っている	○		都度面談や電話で状況の共有を行っています。気になる点、相談に対しての細かな情報が共有できるように取り組みを行っています。	
	29	保護者の対応力の向上を図る観点から、保護者に対してペアレント・トレーニング等の支援を行っている	○		ペアレント・プログラムを6月～8月に1コース(全6回)を毎年継続して実施し、地域の保護者の方にも参加をいただいております。また、専門性を活かして地域の小学校で子育て講座や発達相談会を実施しております。	
保護者への説明責任等	30	運営規程、支援の内容、利用者負担等について丁寧な説明を行っている	○		契約時・変更時等ご説明をさせていただいています。	
	31	保護者からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、必要な助言と支援を行っている	○		いつでも相談してください！と、保護者に伝え、相談に応じています。気さくに話し合える関係づくりに努めています。	
	32	父母の会の活動を支援したり、保護者会等を開催する等により、保護者同士の連携を支援している	○		保護者会を年2回は実施しています。それぞれの関わり方の上手いことや困っていることを話し合ったりしています。	事業所が主導であるので、保護者会が独自で発進できるように支援を行っていきたくと考えています。
	33	子どもや保護者からの苦情について、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知し、苦情があった場合に迅速かつ適切に対応している	○		苦情についての体制は整備しており、周知し、資料を手渡し、掲示もしています。苦情のご連絡はありませんでしたが、心情理解、事実確認、解決策の提示をし、迅速に対応していくことを心掛けて取り組みを行っております。	
	34	定期的に会報等を発行し、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報を子どもや保護者に対して発信している	○		毎月おたよりを発行しています。活動内容については、利用予定表にも記載し、活動の様子については、保護者に都度お話をしています。	
35	個人情報に十分注意している	○		十分注意して取り扱いをさせていただいています。		

	36	障がいのある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしている	○	本人の気持ちを十分にくみ取りながら、必要に応じて絵カードや写真の使用・大きな文字や図に書いて示すなどの配慮を行っています。	
	37	事業所の行事に地域住民を招待する等地域に開かれた事業運営を図っている	○	法人全体としては、地域住民を招待する行事(秋祭り・餅つき会)を実施し開かれた事業運営を図っています。事業所単独としては、個人情報に配慮し、事業所の行事に積極的に参加を促していません。事業所から地域の方への交流として、年末年始のごあいさつや子ども110番の家の取り組み等は行っています。	
非常時等の対応	38	緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアルを策定し、職員や保護者に周知している	○	職員・保護者等への周知徹底を図っており、職員には確実に周知徹底されています。今回のアンケートでもご理解いただいていると判断できました。	
	39	非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っている	○	年間計画に基づき、毎月防火、災害等の訓練を実施しています。消防の立ち合い訓練時は消防士に講評をいただき次回へつなげています。子どもの状況(歩行の状況・首への過敏さ・感覚への過敏さ鈍麻さ・不安の強さや経験値など)とその日の利用児の人数・天候、それに伴った支援を考え訓練を行っています。	
	40	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしている	○	研修を実施しています。相手を「くん」「ちゃん」呼びをせず「さん」呼びでしっかりと相手の人格・気持ちを認める取り組みを行っています。	
	41	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、放課後等デイサービス計画に記載している	○	身体拘束廃止・虐待防止・権利擁護は法人全体の研修を十分に行い、未然防止の共通認識を図っています。身体拘束に相当する行為は、非代替性で生命に関わる場合以外で行うことは想定していませんが、未だ事例はありません。仮に拘束が必要と思われる場合は、事前に保護者に説明し、了解を得たうえで行うことになると考えています。現在はサービス計画への記載を必要とする利用児がいないため記載には至っていません。	
	42	食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされている	○	アレルギー対応マニュアルを策定し、必要に応じて対応しています。矯正中で食べられないお菓子がある方にも個別に対応をしています。	
	43	ヒヤリハット事例集を作成して事業所内で共有している	○	職員で共有し、学び、予防に活かしています。	